令和4年9月 要約版

令和2・3年度　調査研究事業

調査研究シリーズ
No.86

中学

国語科の新学習指導要領 全面実施に向けた学習評価

研究の視点

- ✔ 教科国語の授業実践を通した臨床的な研究
- ✔ 授業実践を通した「言葉による見方・考え方」の具体
- ✔ 学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図る学習評価

公益財団法人
日本教材文化研究財団

生徒を「主語」にした授業づくり
～「学びのプラン」という考え方～

授業は生徒のために行うということは、教師としては誰もが思い、考えていることです。

授業を行うに当たり、教師は、事前に授業のための準備をしています。授業づくりでは、授業で取り上げる素材文の内容の解釈や、それを生徒に理解できるように、どのように教えるかを、事前の教材研究として行ってきているのではないでしょうか。

授業づくりでは、目の前の授業のみではなく、中学校三年間で、生徒に資質・能力（学力）を育成するために、意図的・計画的な準備をします。それがカリキュラム・マネジメントです。カリキュラム・マネジメントは、教師の視点からのものであり、「何を学ばせるか」「何をできるようにするか」が問われます。

授業は、これまで「教師が教え、生徒が学ぶ」というパラダイムの中で展開されてきているのではないでしょうか。授業の「主語」を生徒におくためには、この授業パラダイムの転換を図ることが求められます。教師の視点からの授業づくりから、生徒の視点からの授業づくりへの、視座の転換を図ることが必要となります。生徒の視座から授業を通して「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようにあるか」が問われることになります。

生徒を「主語」にした授業づくりを考えると、これまで当たり前としてきた教師の視座からの「学習指導案」ではなく、学び手としての生徒の視座からの「学びのプラン」が重要になります。

これまで当たり前として授業づくりの柱としてきた「学習指導案」は必要がなくなり、生徒の学ぶための柱としての「学びのプラン」が必要になります。既に、「学習指導案」は作らずに「学びのプラン」を生徒に示すことで、授業を行う学校もあります。

「学びのプラン」は、授業を行う教師が作成します。そこで求められるのは、授業の「主語」としての生徒の学びのプロセスを、教師が生徒の立場や見方・考え方に立ってシミュレーションすることが求められます。このことは、これまでの学習指導案の作成でも行われてきていることですが、これまで以上に生徒の視座に寄り添い、生徒一人一人がそれぞれの個性に合わせて資質・能力の育成を図ることができるようにすることが求められます。「教師が教える」という視座から「生徒が学ぶ」という視座への転換を図ることが重要となります。

「学びのプラン」を生徒が用いることにより、生徒一人一人が学びの見通しと、授業を通して身に付ける資質・能力の内容を理解した上で、授業に臨むことになります。さらに、授業を通して身に付けた資質・能力を、授業の振り返りを行うことを通して、自己の学びを自覚することになります。

生徒が学習と評価に見通しを持ち、振り返るための「学びのプラン」の例

▶報告書80ページ参照

単元名はこの単元で育成する資質・能力を簡潔に示します。

学びのプラン

1　単元名　異なる立場や考えを持つ聞き手を意識して伝え合う資質・能力を育成する。

単元の観点別の評価規準を生徒が理解できる表現で示します。

2　身に付けたい資質・能力

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　発信したい情報について、線や矢印で結んだり、丸や視覚で囲んだり、付箋を活用するなどの工夫をしてメモを作成したり、聞いて受信した情報をグループ分けしたり階層化したりして整理したりしている。	②「話すこと・聞くこと」の学習で、自分とは異なる立場や考えの聞き手がいることを踏まえ、聞き手から反論されたり意見を求められたりすることを具体的に予想して、異なる立場や考えを持つ聞き手の存在を意識して話合いに参加している。	③　パネルディスカッションで話したり聞いたりすることについて、粘り強く取り組むともに、学習課題に沿って、情報を整理したり、話合いの流れに応じて自分の考えや意見及び話し方や聞き方を工夫しながら、伝え合う内容を考え、話合いに参加したりしようとしている。

3　この単元で学習すること

「異なる立場や考えを尊重して、パネルディスカッションをしよう」

月日	次	時	単元を通して身に付けたい資質・能力と評価の方法	学習の内容
	第一次	1		1　「ラウンドテーブル型パネルディスカッション」の方法や特徴を知る。 2　テーマに沿った立場を設定し、自分の立場を決める。
	第二次	2・3	【身に付けたい資質・能力】 （知識・技能） ①　発信したい情報について、線や矢印で結んだり、丸や視覚で囲んだり、付箋を活用するなどの工夫してメモを作成したり、聞いて受信した情報をグループ分けしたり階層化したりして整理したりしている。 →　このことについて、まとめたメモによって評価します。	3　それぞれの立場の意見の根拠となる事柄や意見を出し合い、整理してメモにまとめる。 4　発表の内容・順序・方法を決め、メモにまとめる。 5　「ラウンドテーブル型パネルディスカッション」の進め方を確認し、役割分担を決める。
			ここで学習の振り返り（【身に付けたい資質・能力】の①について）	
		4	【身に付けたい資質・能力】 （思考・判断・表現） ②　「話すこと・聞くこと」の学習で、自分とは異なる立場や考えの聞き手がいることを踏まえ、聞き手から反論されたり意見を求められたりすることを具体的に予想して、異なる立場や考えを持つ聞き手の存在を意識して話合いに参加している。 →　このことについて、パネルディスカッション中の発言や、聞き取りメモによって評価します。	6　「ラウンドテーブル型パネルディスカッション」を行う。 【「ラウンドテーブル型パネルディスカッション」の進め方】 ①コーディネーターによる始めの言葉 ②パネリストによる立論 ③パネリスト相互の質問・意見交換 ④フロアからの質問・意見 ⑤パネリストからのまとめの発言 ⑥コーディネーターによる終わりの言葉
			ここでの学習の振り返り（【身に付けたい資質・能力】の②について）	
	第三次	5	【身に付けたい資質・能力】 （主体的に学習に取り組む態度） ③　パネルディスカッションで話したり聞いたりすることについて、粘り強く取り組むともに、学習課題に沿って、情報を整理したり、話合いの流れに応じて自分の考えや意見及び話し方や聞き方を工夫しながら、伝え合う内容を考え、話合いに参加したりしようとしている。 →　このことについて、パネルディスカッションを振り返って書いたものによって評価します。	7　立場毎のグループでパネルディスカッションを振り返る話合いをする。 8　パネルディスカッションを通して、自分の考えが変化したり、広がったり、深まったりしたことを振り返って書く。
			ここでの学習の振り返り（【身に付けたい資質・能力】の③について）	

評価の資料や方法について生徒が理解し見通しをもつことができるように説明します。

この「学びのプラン」が「学びのあしあと」になるよう、日付を記入する欄を設けています。

生徒が単元の学びを振り返るとともに、自己の学習を調整した経過を記録するため、評価規準ごとに「ここでの学習の振り返り」を記述します。

【研究主題】

国語科の新学習指導要領全面実施に向けた学習評価

理論編

- 国語における学習評価
- 学習過程を踏まえた「主体的に学習に取り組む態度」の評価の類型
- 中学校国語の「目標」を実現するための「PDCAを廻す」授業づくり
- 校内研究の方向性を生かした国語科のカリキュラム・マネジメント

理論編には、平成29年版学習指導要領に基づく国語科の授業づくりと学習評価、教師の学びについての論考を収録しました。

実践編

- GIGAスクール構想を踏まえた授業実践
- カリキュラム・マネジメントを意識した資質・能力の系統的な指導
- 生徒が変える！未来を創る！創造力・表現力を育む実践
- 根拠の適切さや表現の効果を考えて、伝わる文章になるよう工夫する単元

実践編には、「資質・能力」を育成するための授業実践から、学習指導案や「学びのプラン」を多数収録しました。

研究会メンバー

髙木　展郎（横浜国立大学 名誉教授）
三藤　敏樹（横浜市立菅田中学校 副校長）
中村　慎輔（愛川町立菅原小学校 校長）
山内　裕介（横浜市教育委員会事務局 教職員育成課 主任指導主事）
荒井　純一（茅ヶ崎市立松浪中学校 教諭）
梁 梨花　Yang Lihwa（横浜市立豊田中学校）
栗原　優花（横浜市立港南台第一中学校 教諭）
田口　尚希（横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校 教諭）

（令和4年8月現在）

公益財団法人 日本教材文化研究財団
〒162-0841 東京都新宿区払方町14-1　電話：03-5225-0255　FAX：03-5225-0256　https://www.jfecr.or.jp

←「調査研究シリーズ」は、当財団のwebサイトに掲載しています。

当リーフレットの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。Unauthorized copying prohibited.